

町田市
子ども・子育て支援に関するアンケート調査
調査結果のポイント

2015 年 10 月

町田市子ども・子育て会議

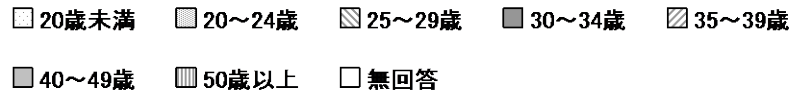
調査結果概要

- ◇全国的な傾向として晩産化が見られますが、町田市においても晩産化がうかがえます。
 - ◇男女共同参画が推進され、男性の育児参加の機運は高まっていますが、家事・育児については依然として母親に負担がかかっている状況です。
 - ◇自治会や町内会の加入状況は、小学校に上がる頃に家を持つなどし、地域に定着する家庭が増え、加入率が上がっています。また、それにともない、地域活動への参加も増えています。
 - ◇子どもの放課後の居場所について、就学前児童保護者は「学童保育クラブ」の希望が高いが、小学生保護者の希望は「自宅・その周辺」とギャップが見られます。
 - ◇子育てに関する悩みや不安については、経済的負担の大きさや子どもへのしつけに関することに対して不安を感じる保護者が多く見られました。
 - ◇子育ての悩みについては、家族に相談、友だちに相談が多くみられ、相談せずに解決している保護者も多く見られました。しかし、相談できない保護者も一定数見られました。
 - ◇子どもにとって必要な環境については、未就学児童・小学生保護者ともに、「安全・安心な環境」、「大人の規範としての役割」への重要度は高いと認識していますが、不足しているとの認識も高い状況です。
 - ◇子どもの内面的成長については、未就学児童・小学生保護者ともに、「コミュニケーション能力」、「抵抗力」への重要度は高いと認識していますが、不足しているとの認識も高い状況です。
 - ◇市のサービスのについては、就学前児童・小学生保護者ともに「小児医療」、「子ども（親子）の居場所」「子どもの安全」についてのニーズの高さが見られました。
-
- 中高生が気軽に相談している相手は、友だちと母親等の家族が多く、身近に相談相手がいる中高生が多く見られましたが、誰もいない中高生も一定数見られました。
 - 学校生活を楽しいと感じる中高生が多く見られますが、苦手な教科がある、友だち関係から楽しさを感じない中高生も一定数見られました。
 - 中高生の放課後（休日）の居場所について、のんびりできる場所や友だちとおしゃべりできる場所などのニーズはあります。一方、実際には自宅、部活動、塾等の習い事が多く見られました。
 - 中高生のインターネット等の使用時間については、年齢が上がるにつれ使用時間が増えています。
 - 中高生の自己肯定感については、4割程度が肯定感を持っていない状況が見られます。

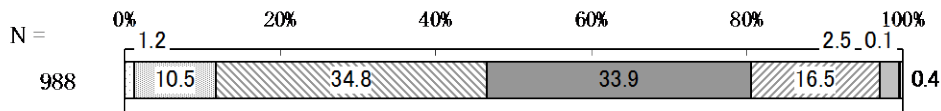
1 家庭の状況

問4 第一子を出産されたときの年齢。

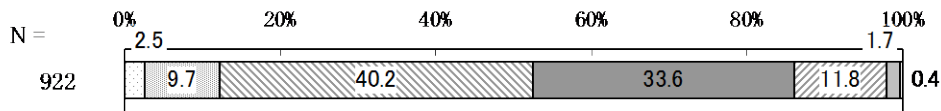
全国的な傾向として、晩婚化・晩産化が見られますが、小学生保護者に比べ、就学前児童保護者では「25～29歳」の割合が低く、また、「35～39歳」の割合が高くなっており、町田市においても、晩産化が進んでいることがうかがえます。



就学前児童保護者



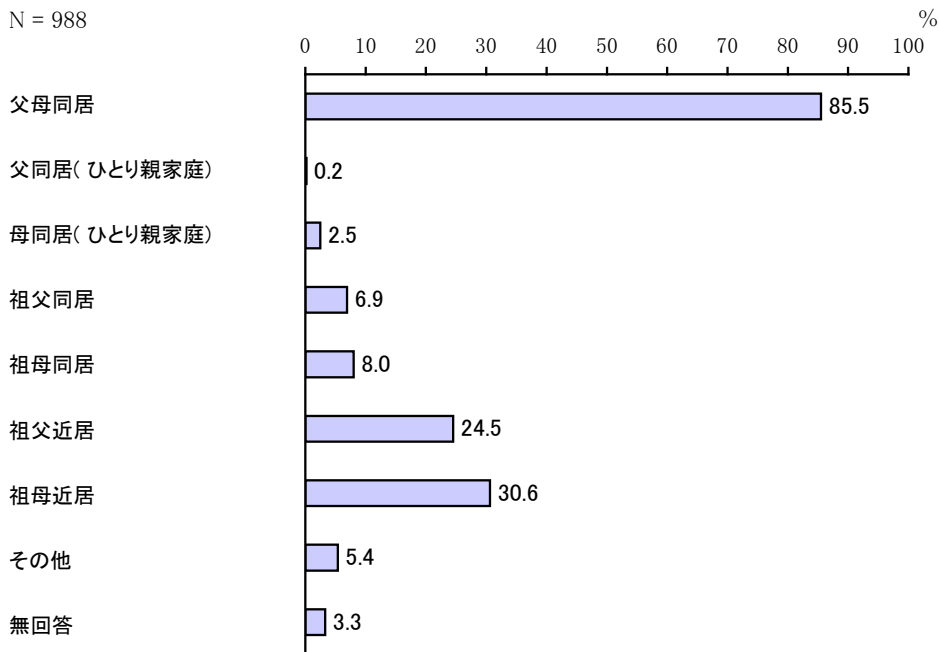
小学生保護者



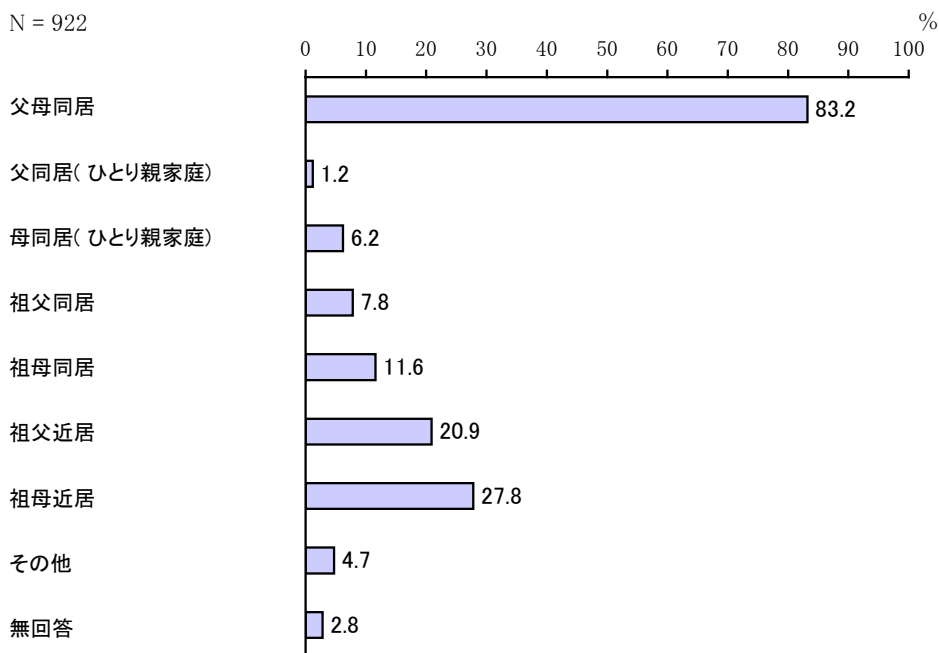
問5 同居・近居の状況

祖父母と同居している家庭は1割程度ですが、祖父母と近居している家庭は3割程度見られ、同居家庭と合わせて、4割程度の家庭は日常的に祖父母の支援を受けられる状況にあることがうかがえます。

就学前児童保護者



小学生保護者



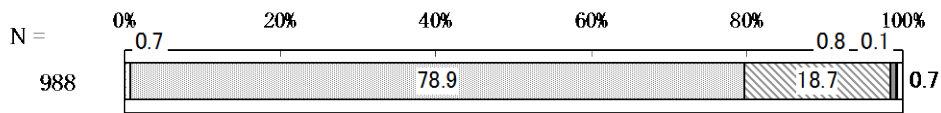
問7 子どもの身の回りの世話などを主にしている人

問8 家事や子育てを、主に行っている人やそれを補助する人

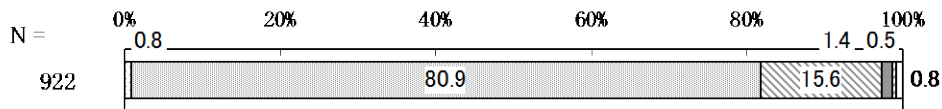
男女共同参画が推進される中、男性も子育てに積極的に関わる機運は高まっていますが、子どもの身の回りの世話などを主にしている人は「主に母親」の割合が8割となっており、家庭内における男女の役割分担については、依然として主に女性が家事・育児を担う現状にあることがうかがえます。

■主に父親 □主に母親 ▨父母共に ■主に祖父母 ▩その他 □無回答

就学前児童保護者



小学生保護者



就学前児童保護者

単位：％

区分	有効回答数 (件)	子の母・女性保護者	子の父・男性保護者	父母共に	子のきょうだい	おじ・おば	その他	無回答
①食事を作る	988	90.8	1.6	7.6	0.3	0.1	3.4	0.3
②食事の後かたづけ	988	80.6	5.9	15.5	1.8	0.2	3.1	-
③掃除をする	988	82.5	5.1	14.8	0.6	0.1	2.1	-
④洗濯をする	988	84.1	5.0	12.2	0.5	0.2	2.4	0.4
⑤買い物をする (日用品や食材など)	988	74.9	6.2	24.0	0.3	0.3	2.4	-
⑥子どもの身の回りの世話	988	78.3	4.7	21.7	0.7	0.3	2.1	0.2
⑦子どもと遊ぶ	988	42.3	16.0	51.9	13.1	1.2	3.3	0.3
⑧子どもをお風呂に入れる	988	54.6	15.6	37.8	5.0	0.2	2.1	0.4
⑨保育園・幼稚園等の送迎	988	69.3	4.1	12.8	0.1	0.3	5.8	13.0
⑩保育園・幼稚園・学校の保護者会等の参加	988	71.4	3.6	12.7	0.1	0.1	3.3	12.8

小学生保護者

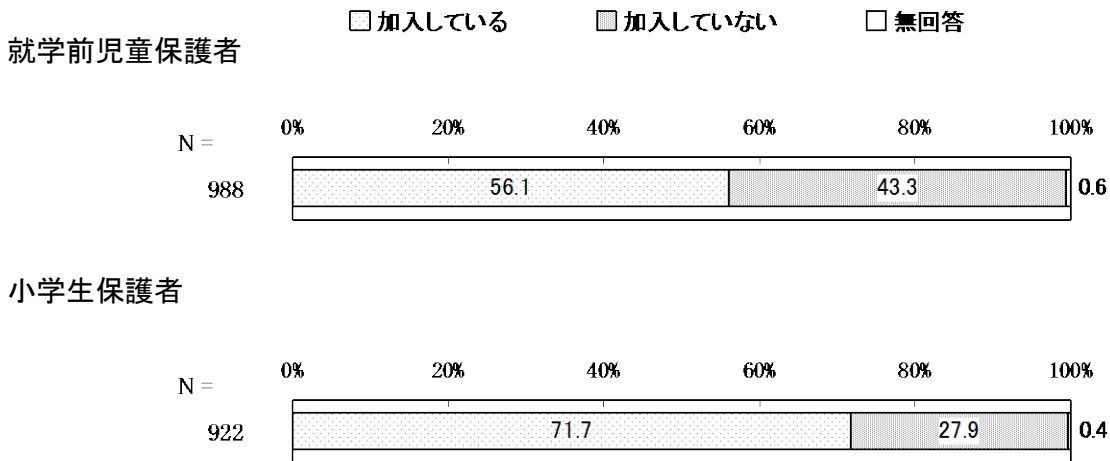
単位：％

区分	有効回答数 (件)	子の母・女性保護者	子の父・男性保護者	父母共に	子のきょうだい	おじ・おば	その他	無回答
①食事を作る	922	89.6	2.5	6.9	0.9	0.5	4.4	0.1
②食事の後かたづけ	922	82.1	4.1	12.9	2.4	0.5	4.4	0.1
③掃除をする	922	85.1	3.9	11.7	2.1	0.7	2.9	0.1
④洗濯をする	922	88.3	3.5	6.9	0.7	0.4	3.3	0.2
⑤買い物をする (日用品や食材など)	922	79.4	4.7	18.0	1.1	0.4	2.9	-
⑥子どもの身の回りの世話	922	83.6	3.1	14.3	1.1	0.4	2.7	0.2
⑦子どもと遊ぶ	922	38.1	17.9	43.7	18.1	1.4	4.4	0.4
⑧子どもをお風呂に入れる	922	50.2	13.6	24.6	7.5	0.5	10.5	3.7
⑨保育園・幼稚園等の送迎	922	61.4	2.8	6.9	0.5	0.1	6.7	23.9
⑩保育園・幼稚園・学校の保護者会等の参加	922	87.6	3.4	7.6	-	-	1.3	2.7

2 地域生活の状況

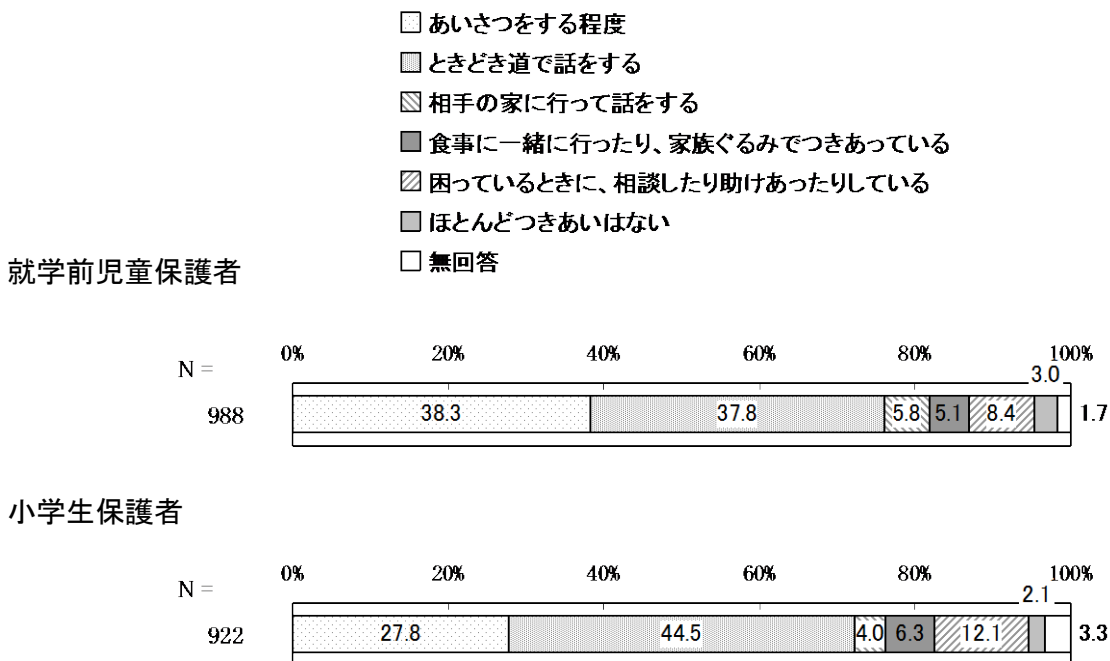
問9 自治会や町内会の加入

就学前児童保護者に比べ、小学生保護者では「加入している」の割合が高くなっており、子どもが小学校に上がるころには、家を持つなどし、地域に定着する家庭が多くなることがうかがえます。



問10 近所とのつきあい

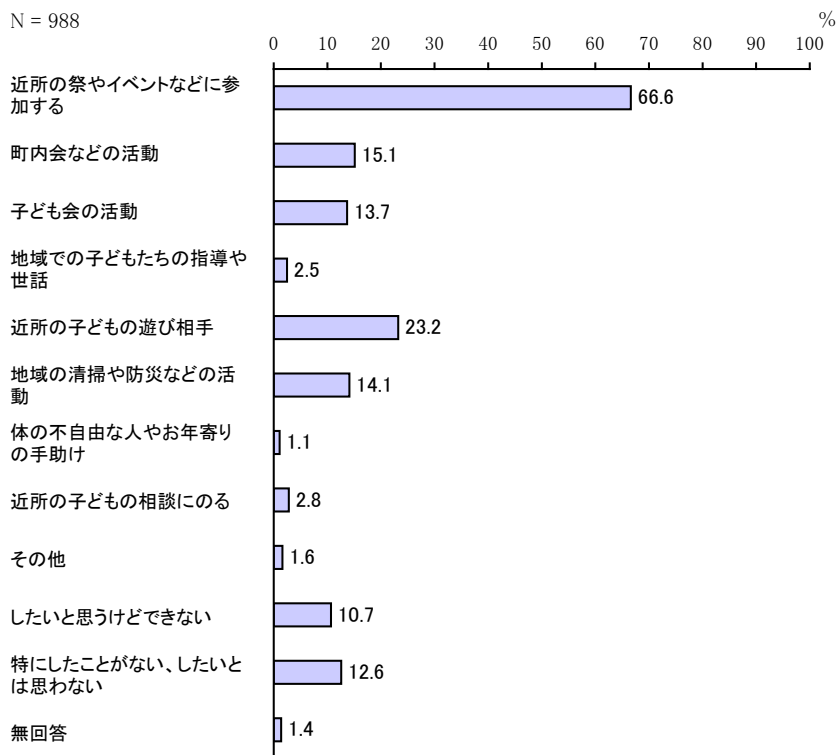
同様に、就学前児童保護者に比べ、小学生保護者では「ときどき道で話をする」の割合が高く、子どもが小学校に上がることを契機に、近所づきあいが深まる傾向にあることがうかがえます。



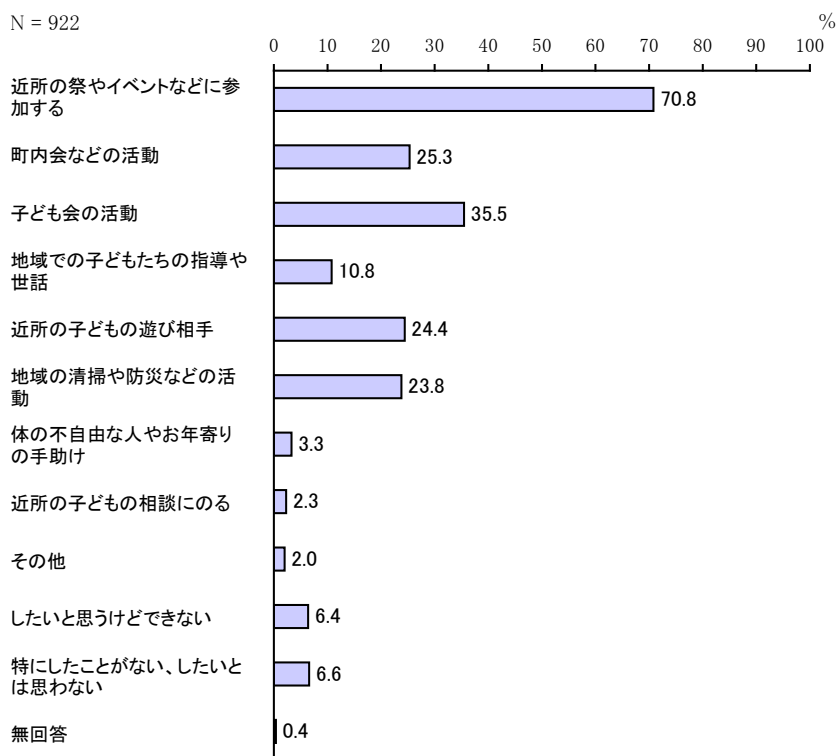
問 11 1 年間で地域活動の参加状況

就学前児童保護者に比べ、小学生保護者では「町内会などの活動」「子ども会の活動」の割合が高く、小学校への就学が地域との繋がりをつくる契機となっていることがうかがえます。

就学前児童保護者



小学生保護者



3 子どもの遊び場・放課後の活動

問 12 子どもが小学校に上がったら、放課後どこで遊ばせたいか。(学校のある日の放課後、どこで遊んでいるか)

就学前児童保護者では、「学童保育クラブ」の割合が 26.6%と最も高くなっている一方で、小学生保護者では「学童保育クラブ」の割合は 10.1%となっており、保護者の利用希望と利用の実態との間にギャップがあることがうかがえます。

就学前児童保護者

単位：%

有効回答数(件)	自宅、自宅周辺	友だちの家、友だちの周辺	学童保育クラブ	公園	学校の校庭(「まちとも」など)	子どもセンター、子どもクラブ(児童館)	地域子ども教室	冒険あそび場	放課後等デイサービス	ひなた村、大地沢青少年センター	市立体育館(総合体育館、サン町田旭体育館)	その他	無回答
988	25.0	1.5	26.6	14.5	12.1	3.8	0.2	0.7	0.9	0.2	0.3	0.7	13.4

小学生保護者

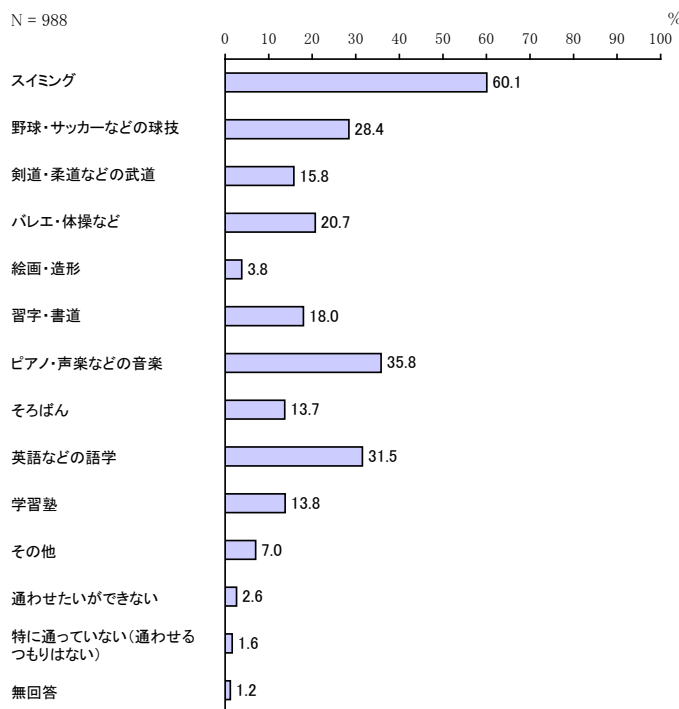
単位：%

有効回答数(件)	自宅、自宅周辺	友だちの家、友だちの周辺	学童保育クラブ	公園	学校の校庭(「まちとも」など)	子どもセンター、子どもクラブ(児童館)	地域子ども教室	冒険あそび場	放課後等デイサービス	ひなた村、大地沢青少年センター	市立体育館(総合体育館、サン町田旭体育館)	その他	無回答
922	48.5	7.2	10.1	13.6	2.1	1.6	-	-	0.1	-	0.4	1.1	15.4

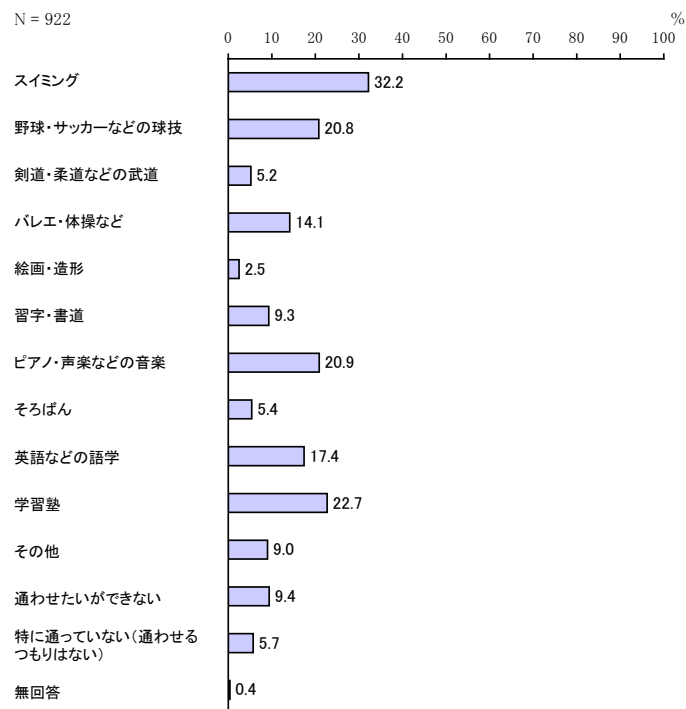
問 13 子どもが小学校に上がったら、放課後、習い事、学習塾、スポーツクラブなどに通わせたいか。(学校のある日の放課後、習い事、学習塾、スポーツクラブなどに継続的に通っているか。)

通わせている活動は多様化していますが、「通わせたいができない」「特に通っていない(通わせるつもりはない)」の割合は低く、何らなの習い事を希望している、通わせている保護者が多くを占めています。

就学前児童保護者



小学生保護者

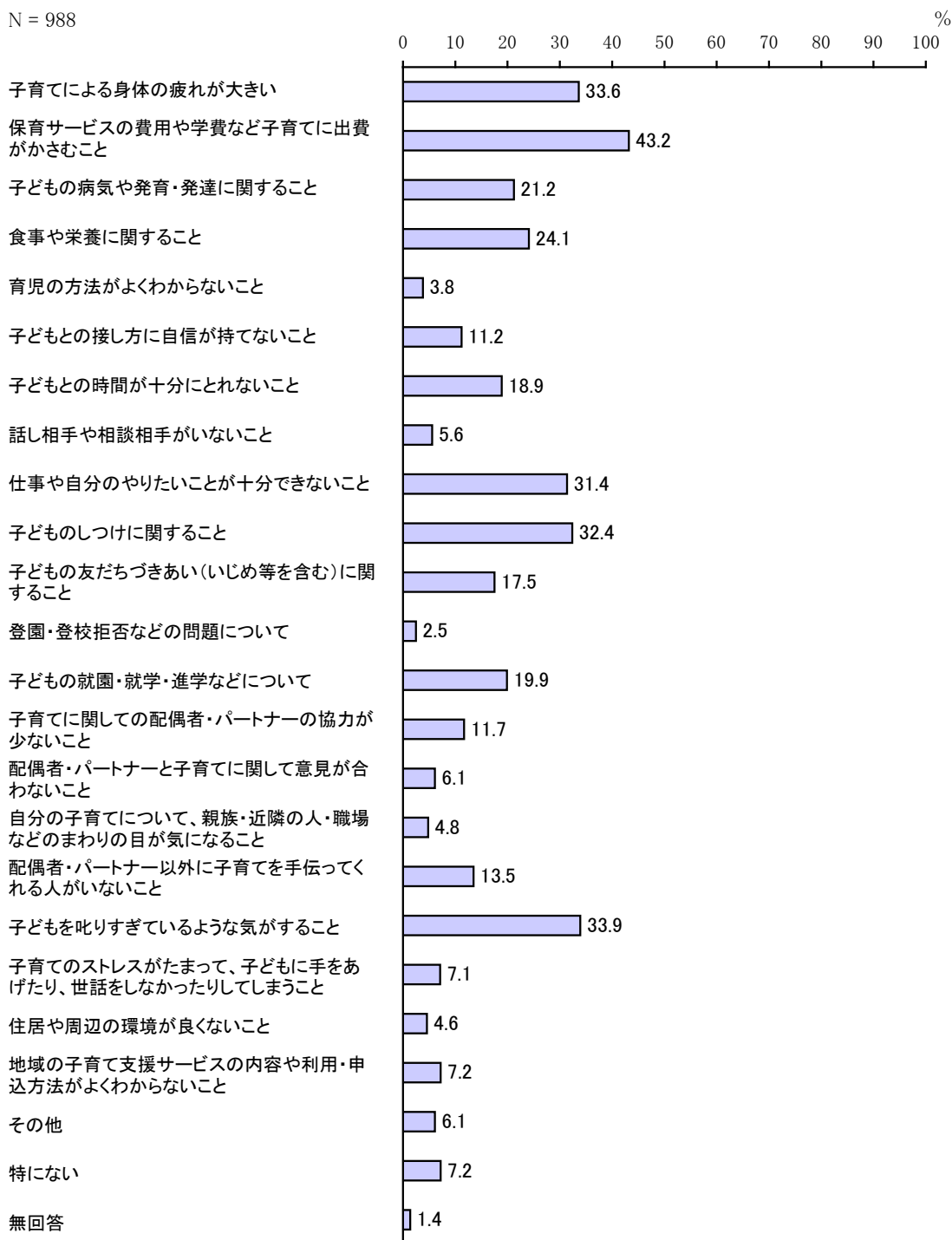


4 子育てに関する悩みや不安

問 14 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になること

就学前児童保護者、小学生保護者ともに「保育サービスの費用や学費など子育てに出費がかさむこと」の割合が最も高く、経済的な負担感の大きさがうかがえます。それに次いで、「子どもを叱りすぎているような気がする」となっています。

就学前児童保護者



小学生保護者

N = 922



問 15 子育ての不安や悩みを感じたときの解決方法

就学前児童保護者、小学生保護者ともに家族や友人に相談する人が多くを占めていますが、「相談していない・できない」人も一定数みられ、こうした相談ができない人への対応は今後も課題となります。また、無回答者には、特に不安や悩みを感じていない人や相談以外の解決策を取っている人が含まれていると推察されます。

就学前児童保護者

単位：%

有効回答数（件）	配偶者、祖父母などの家族に相談する	友だちに相談する	保育園や幼稚園、学校、学童保育クラブなどに相談する	教育センターに相談する	保健所・保健センターに相談する	子ども家庭支援センターに相談する	地域子育て相談センターに相談する	すみれ教室に相談する	病院・診療所に相談する	その他	相談していない・できない	無回答
988	53.8	15.6	1.7	-	0.2	0.1	0.1	0.3	0.6	1.1	3.3	23.1

小学生保護者

単位：%

有効回答数（件）	配偶者、祖父母などの家族に相談する	友だちに相談する	保育園や幼稚園、学校、学童保育クラブなどに相談する	教育センターに相談する	保健所・保健センターに相談する	子ども家庭支援センターに相談する	地域子育て相談センターに相談する	すみれ教室に相談する	病院・診療所に相談する	その他	相談していない・できない	無回答
922	51.8	19.8	1.1	0.4	-	0.1	-	-	0.4	2.1	6.5	17.7

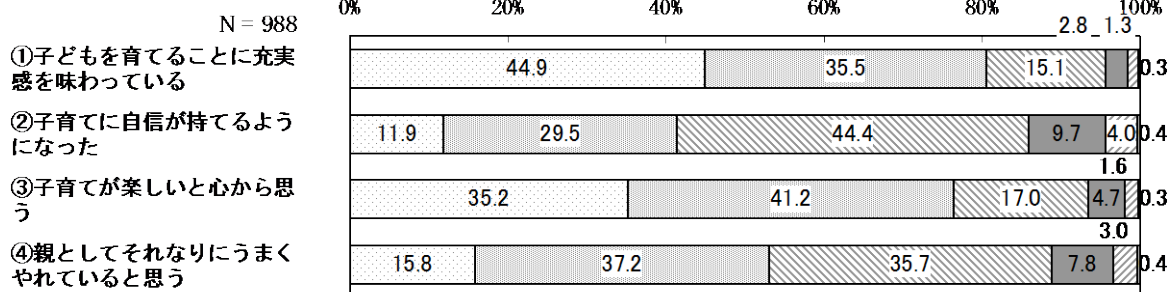
5 子育てについて

問 16 現在の子育てにおける肯定感や充実感

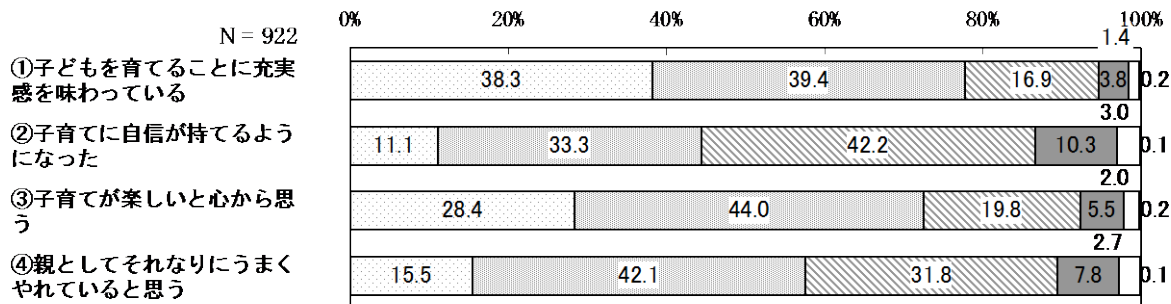
①子どもを育てることに充実感を味わっている、③子育てが楽しいと心から思うで「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせた“あてはまる”の割合が高く、一方で②子育てに自信が持てるようになった、④親としてそれなりにうまくやれていると思う、では比較的低いことから、子育て自体は楽しんでいたり肯定的に受け止めているものの、子育てにあまり自信が持てていない姿がうかがえます。

あてはまる ややあてはまる どちらともいえない
 あまりあてはまらない あてはまらない 無回答

就学前児童保護者



小学生保護者



- 問 17 子どもが家庭・地域・学校（園）などのまわりの世界から受け取る好ましい経験の「重要度」と「不足度」
- 問 18 子どもの好ましい心理的（内面的）成長・発達を反映する特性や行動の「重要度」と「不足度」

質問項目について、「重要度」と「不足度」を6つの選択肢の中から回答してもらい、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

■重要度・不足度の得点化の手順■

重要度		得点	不足度		得点
とても重要だと思う	→	3点	不足している	→	3点
重要だと思う	→	2点	やや不足している	→	2点
重要だと思わない	→	1点	十分足りている	→	1点
無回答	→	計算対象外	無回答	→	計算対象外

■重要度の得点の算出式■

$$(3 \text{ 点} \times \text{「とても重要だと思う」の回答者数} + 2 \text{ 点} \times \text{「重要だと思う」の回答者数} + 1 \text{ 点} \times \text{「重要だと思わない」の回答者数}) / \text{有効回答者数}$$

■不足度の得点の算出式■

$$(3 \text{ 点} \times \text{「不足している」の回答者数} + 2 \text{ 点} \times \text{「やや不足している」の回答者数} + 1 \text{ 点} \times \text{「十分足りている」の回答者数}) / \text{有効回答者数}$$

【問 17 項目内容】

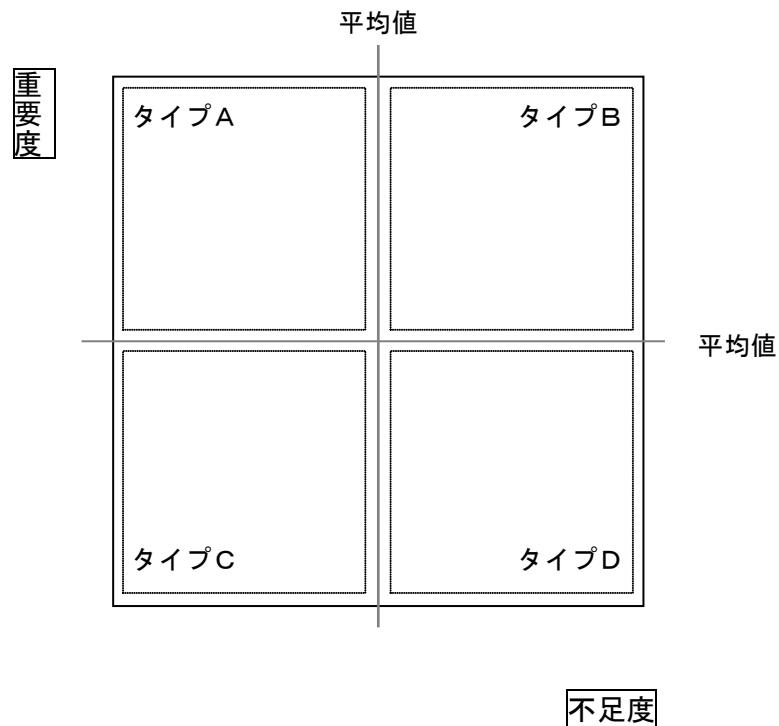
項目	内容
① 家族の支援	家族が、子どもに深い愛情を注ぎ、支援する。また、家族と子どもは、互いの気持ちを伝えあう。
② 他の大人の援助	周囲の人たちが、子どもや保護者が困ったときに助けたり、相談に乗ったりして、あたたかく見守っている。
③ 子どものことを気にかけてくれる地域社会	地域が、子どもたちを気にかけてくれる環境である。
④ 親身に気遣う学校（園）	学校（園）は、子どもを親身に気遣い、学校（園）や地域などの活動がうまくいくよう励まし勇気づける。
⑤ 保護者の地域活動への協力	保護者が、子どもが地域活動の中でうまくいくように積極的に協力する。
⑥ 地域社会の承認	家庭や地域が、子どもたちを大事な存在として扱う。
⑦ 子どもの社会的役割	家庭や地域が、子どもたちに有用な役割を与える。
⑧ 奉仕活動	家族が子どもとともに、奉仕活動（ボランティア活動）を行う。
⑨ 安全・安心な環境	家庭・地域・学校（園）が、子どもが家庭・地域・社会で安全かつ安心して暮らせるように環境を整える。
⑩ 家庭の規範	家庭が、はっきりした規範、特に善悪に関する規範を持ち、子どもの行動を見守る。
⑪ 家庭外の規範（学校・園が規範を示し、見守る）	学校（園）や地域が、明確な規範を示し、近所の人には子どもの行動を見守る。
⑫ 大人の規範としての役割	保護者や他の大人たちが、好ましい、責任ある行動の見本となる。
⑬ 仲間との交流	子どもが、他の子どもと交流し、遊び、行動を共にする機会を家庭や地域が提供する。

項目	内容
⑭ 年齢にふさわしい発達への期待	保護者や他の大人たちが、子どもが年齢にふさわしい発達や個性を伸ばせるように励ます。
⑮ 創造活動	家庭・地域・学校（園）が、子どもに音楽、美術、演劇などの活動の機会を提供する。
⑯ 家庭外活動	家庭・地域・学校（園）が、子どもに課外活動や地域のスポーツ活動の機会を提供する。
⑰ 自然や生命とのふれあい	家庭・地域・学校（園）が、子どもに動植物や自然とふれあう体験活動の機会を提供する。
⑱ 職業との出会い	家庭・地域・学校（園）が、子どもに、地域の産業に直接ふれるなどの体験の機会を提供する。
⑲ 消費活動	家庭・地域・学校（園）が、子どもに金銭や物を大切に扱うこと意識をもつための取り組みの機会を提供する。
⑳ 健康活動	家庭・地域・学校（園）が、子どもに食生活と健康に関する意識を高める取り組みの機会を提供する。

【問 18 項目内容】

項目	内容
① 思いやり	子どもが、他の人々への思いやる気持ちを持っている。
② 社会的正義感	子どもが、社会的に望まれる正しい行いを尊ぶ気持ちを持っている。
③ 誠実さ	子どもが、家庭で決めた約束事を守るなどの誠実さを持っている。
④ 責任感	子どもが、家の手伝いや約束事をやり遂げている。
⑤ 健全な日常生活	子どもが、食事や睡眠の重要性や異性に対してふさわしい姿勢や考え方を持っている。
⑥ 所属感	子どもが、家庭や地域に愛着を感じている。
⑦ 自己統制力	子どもが、我慢することの大切さを知っている。
⑧ 自己肯定	子どもが、自分のよいところを認識している。
⑨ 人生の目的	子どもが、自分の成長を実感し、毎日を楽しく過ごしている。
⑩ 将来への希望	子どもが、将来の希望をもち、前向きである。
⑪ 計画性と決断力	子どもが、計画性をもった行動をしている。
⑫ コミュニケーション能力	子どもが、相手の意見を聞き入れ、自分の意見を表現できる。
⑬ 抵抗力	子どもが、様々なストレスに対する力を身につけている。
⑭ 争いの平和的解決	子どもが、平和的に争いを解決するための力を身につけている。
⑮ 人権の理解	子どもが、他者の人権を尊重し、差別や偏見のない社会の実現を願っている。
⑯ 自己情報を管理する力	子どもが、自分に関する情報をきちんと身につけている。
⑰ 達成への動機づけ	子どもが、いろいろな活動において最後まで取り組もうとしている。
⑱ 学びへの意欲	子どもが、いろいろなことに関心を持って、積極的に学んでいる。
⑲ 宿題や課題への挑戦	子どもが、自分に与えられたテーマに自ら積極的に挑戦している。
⑳ 読書の喜び	子どもが、1日少なくとも30分、読書をしている。

各項目の重要度・不足度の得点の関係について、重要度・不足度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、得点の平均値を境界として、4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の施策の方向性について分析しました。



- ◆タイプA 重要度は高いが、不足度は低い
- ◆タイプB 重要度は高く、不足度も高い
- ◆タイプC 重要度は低く、不足度も低い
- ◆タイプD 重要度は低い、不足度は高い

就学前児童保護者、小学生保護者ともに全体の傾向として、重要度の高い項目ほど不足度が低くなっています。

そのなかで、子どもがまわりから受ける好ましい経験（外的資産）については、重要度が高く、不足度が低い項目として「1 家庭の支援」「10 家族の規範」などが挙がっており、子どもの成長過程において、家族との会話や家庭におけるしつけ、基本的な生活習慣などの形成の重要性を肯定的に捉え、保護者自身もそれに対して取り組んでいる状況がうかがえます。

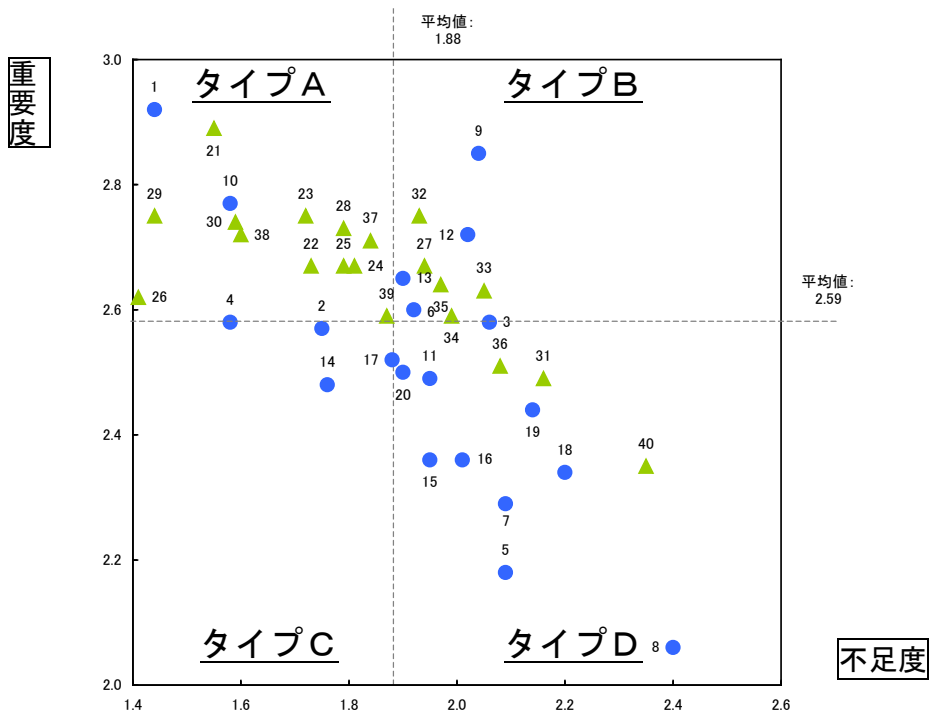
一方で、「8 奉仕活動（ボランティア活動）」などの地域社会との関わりは、家庭の支援ほど重要視されていない傾向がうかがえます。

子どもの好ましい心理的成長・発達を反映する特性や行動（内的資産）については、重要度が高く、不足度の低い項目として「21 思いやり」が挙がっており、子どもの好ましい価値観の形成が重要視されている傾向がうかがえます。

一方で、「40 読書の喜び」の重要度は低く、子どもの成長における読書の習慣の必要性が重要視されていない傾向がうかがえます。

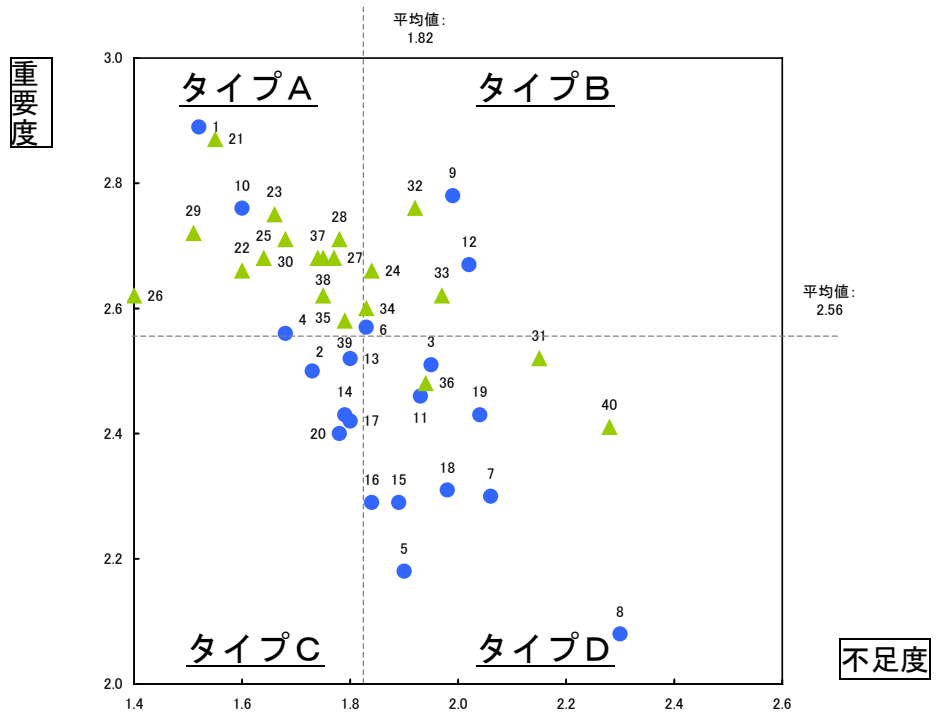
国立教育政策研究所の結果（学校教育関係者等が対象）に比べると、「5 保護者の地域活動への協力」「7 子どもの社会的役割」「8 奉仕活動」「12 大人の規範としての役割」などについては町田市の結果に比べ重要度が高い傾向にあり、教育関係者等から見ると、家庭の支援とともに地域社会からの支援、働きかけは子どもの成長にとって重要な要素と考えられていますが、保護者においては、重要度が低く認識されている傾向にあります。

就学前児童保護者



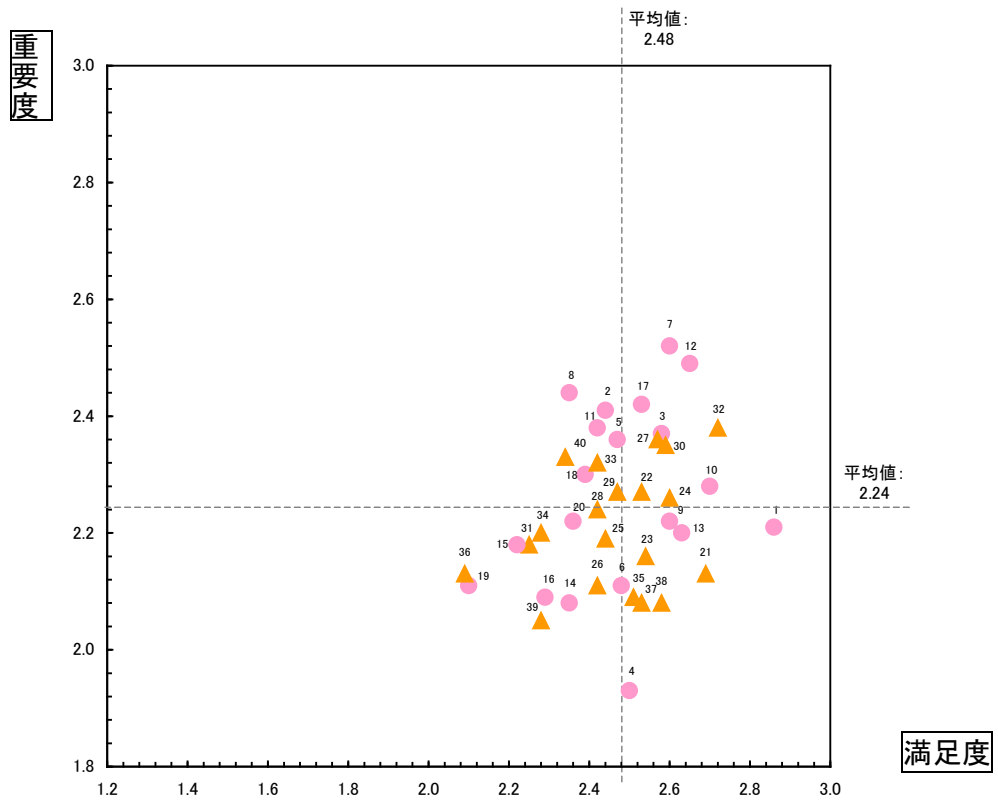
No	● 外的資産	不足度	重要性	No	▲ 内的資産	不足度	重要性
1	家族の支援	1.44	2.92	21	思いやり	1.55	2.89
2	他の大人の援助	1.75	2.57	22	社会的正義感	1.73	2.67
3	子どものことを気にかけてくれる地域社会	2.06	2.58	23	誠実さ	1.72	2.75
4	親身を気遣う学校	1.58	2.58	24	責任感	1.81	2.67
5	保護者の地域活動への協力	2.09	2.18	25	健全な日常生活	1.79	2.67
6	地域社会への承認	1.92	2.60	26	所属感	1.41	2.62
7	子どもの社会的役割	2.09	2.29	27	自己統制力	1.94	2.67
8	奉仕活動	2.40	2.06	28	自己肯定	1.79	2.73
9	安全・安心な環境	2.04	2.85	29	人生の目的	1.44	2.75
10	家庭の規範	1.58	2.77	30	将来への希望	1.59	2.74
11	家庭外の規範	1.95	2.49	31	計画性と決断力	2.16	2.49
12	大人の規範としての役割	2.02	2.72	32	コミュニケーション能力	1.93	2.75
13	仲間との交流	1.90	2.65	33	抵抗力	2.05	2.63
14	年齢にふさわしい発達への期待	1.76	2.48	34	争いの平和的解決	1.99	2.59
15	創造活動	1.95	2.36	35	人権の理解	1.97	2.64
16	家庭外活動	2.01	2.36	36	自己情報を管理する力	2.08	2.51
17	自然や生命とのふれあい	1.88	2.52	37	達成へ動機付け	1.84	2.71
18	職業との出会い	2.20	2.34	38	学びへの意欲	1.60	2.72
19	消費活動	2.14	2.44	39	宿題や課題への挑戦	1.87	2.59
20	健康活動	1.90	2.50	40	読書の喜び	2.35	2.35

小学生保護者



No	● 外的資産	不足度	重要度	No	▲ 内的資産	不足度	重要度
1	家族の支援	1.52	2.89	21	思いやり	1.55	2.87
2	他の大人の援助	1.73	2.50	22	社会的正義感	1.60	2.66
3	子どものことを気にかけてくれる地域社会	1.95	2.51	23	誠実さ	1.66	2.75
4	親身を気遣う学校	1.68	2.56	24	責任感	1.84	2.66
5	保護者の地域活動への協力	1.90	2.18	25	健全な日常生活	1.64	2.68
6	地域社会への承認	1.83	2.57	26	所属感	1.40	2.62
7	子どもの社会的役割	2.06	2.30	27	自己統制力	1.77	2.68
8	奉仕活動	2.30	2.08	28	自己肯定	1.78	2.71
9	安全・安心な環境	1.99	2.78	29	人生の目的	1.51	2.72
10	家庭の規範	1.60	2.76	30	将来への希望	1.68	2.71
11	家庭外の規範	1.93	2.46	31	計画性と決断力	2.15	2.52
12	大人の規範としての役割	2.02	2.67	32	コミュニケーション能力	1.92	2.76
13	仲間との交流	1.80	2.52	33	抵抗力	1.97	2.62
14	年齢にふさわしい発達への期待	1.79	2.43	34	争いの平和的解決	1.83	2.60
15	創造活動	1.89	2.29	35	人権の理解	1.75	2.62
16	家庭外活動	1.84	2.29	36	自己情報を管理する力	1.94	2.48
17	自然や生命とのふれあい	1.80	2.42	37	達成へ動機付け	1.74	2.68
18	職業との出会い	1.98	2.31	38	学びへの意欲	1.75	2.68
19	消費活動	2.04	2.43	39	宿題や課題への挑戦	1.79	2.58
20	健康活動	1.78	2.40	40	読書の喜び	2.28	2.41

(参考) 国立教育政策研究所 調査結果 (平成 17 年度) による外的資産、内的資産の重要度と不足度の相関図



No	● 外的資産	満足度	重要度	No	▲ 内的資産	満足度	重要度
1	家族の支援	2.86	2.21	21	思いやり	2.69	2.13
2	他の大人の援助	2.44	2.41	22	社会的正義感	2.53	2.27
3	子どものことを気にかけてくれる地域社会	2.58	2.37	23	誠実さ	2.54	2.16
4	親身を気遣う学校	2.50	1.93	24	責任感	2.60	2.26
5	保護者の地域活動への協力	2.47	2.36	25	健全な日常生活	2.44	2.19
6	地域社会への承認	2.48	2.11	26	所属感	2.42	2.11
7	子どもの社会的役割	2.60	2.52	27	自己統制力	2.57	2.36
8	奉仕活動	2.35	2.44	28	自己肯定	2.42	2.24
9	安全・安心な環境	2.60	2.22	29	人生の目的	2.39	2.30
10	家庭の規範	2.70	2.28	30	将来への希望	2.59	2.35
11	家庭外の規範	2.42	2.38	31	計画性と決断力	2.22	2.18
12	大人の規範としての役割	2.65	2.49	32	コミュニケーション能力	2.72	2.38
13	仲間との交流	2.63	2.20	33	抵抗力	2.47	2.27
14	年齢にふさわしい発達への期待	2.35	2.08	34	争いの平和的解決	2.28	2.20
15	創造活動	2.25	2.18	35	人権の理解	2.51	2.09
16	家庭外活動	2.29	2.09	36	自己情報を管理する力	2.09	2.13
17	自然や生命とのふれあい	2.53	2.42	37	達成へ動機付け	2.53	2.08
18	職業との出会い	2.34	2.33	38	学びへの意欲	2.58	2.08
19	消費活動	2.10	2.11	39	宿題や課題への挑戦	2.28	2.05
20	健康活動	2.36	2.22	40	読書の喜び	2.42	2.32

※こちらの調査では「満足度」を算定している

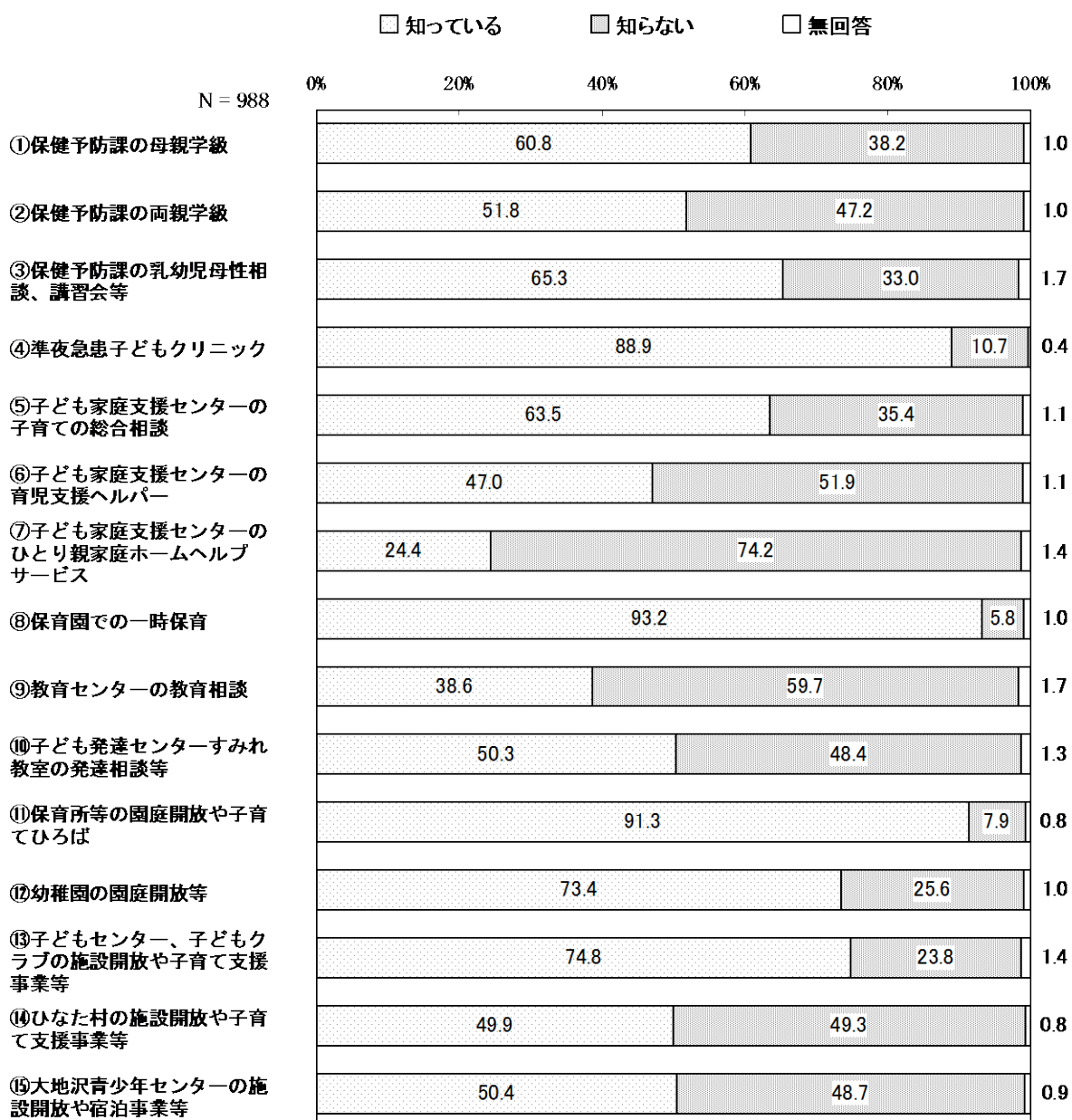
6 子育て施策

問 19 市のサービスの認知状況と利用意向

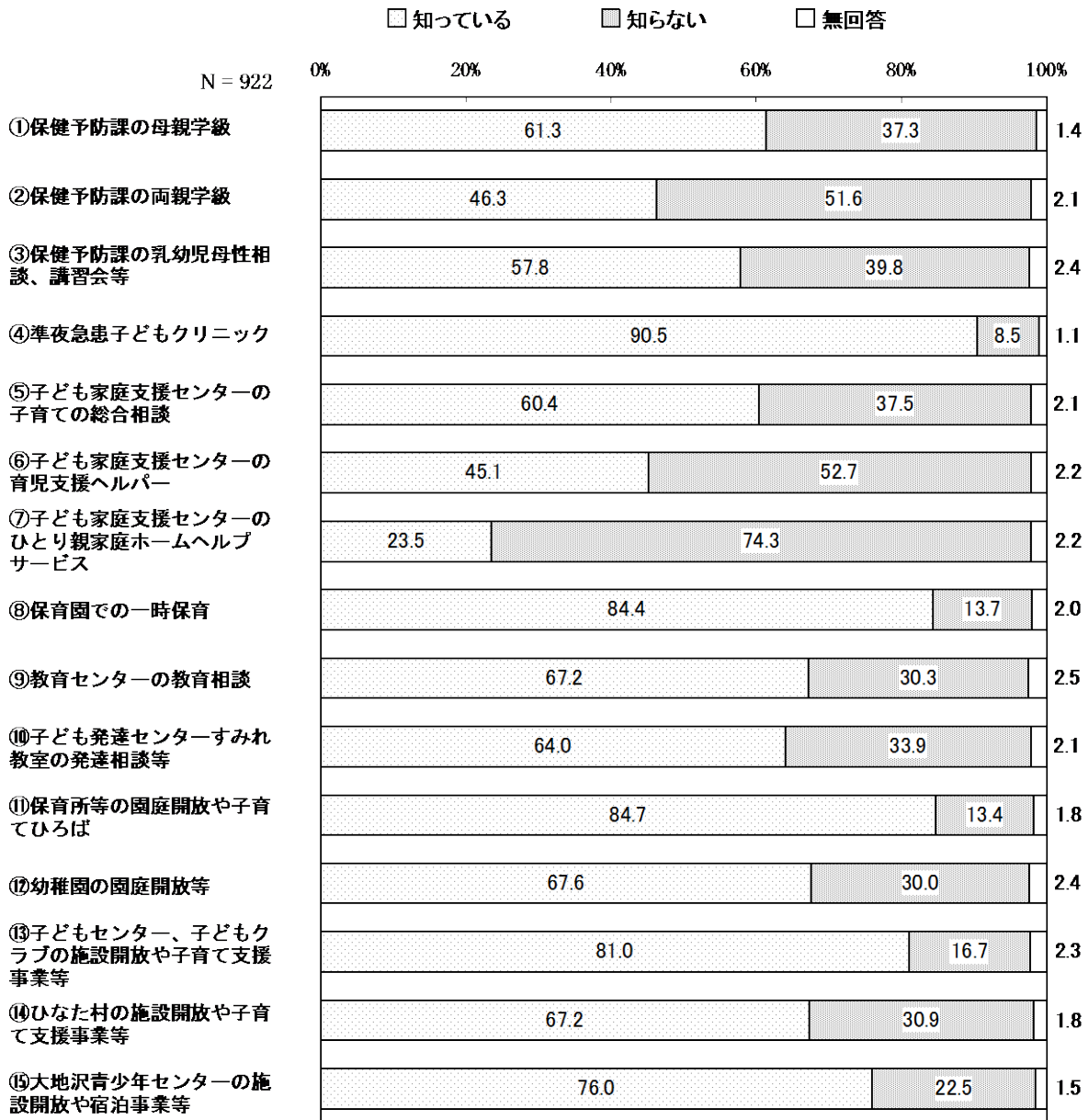
【認知状況】

就学前児童保護者、小学生保護者ともに⑦子ども家庭支援センターのひとり親家庭ホームヘルプサービスで「知らない」の割合が高くなっています。⑨教育センターの教育相談については、就学前児童保護者では「知らない」の割合が高くなっていますが、小学生保護者では認知度が向上しています。

就学前児童保護者



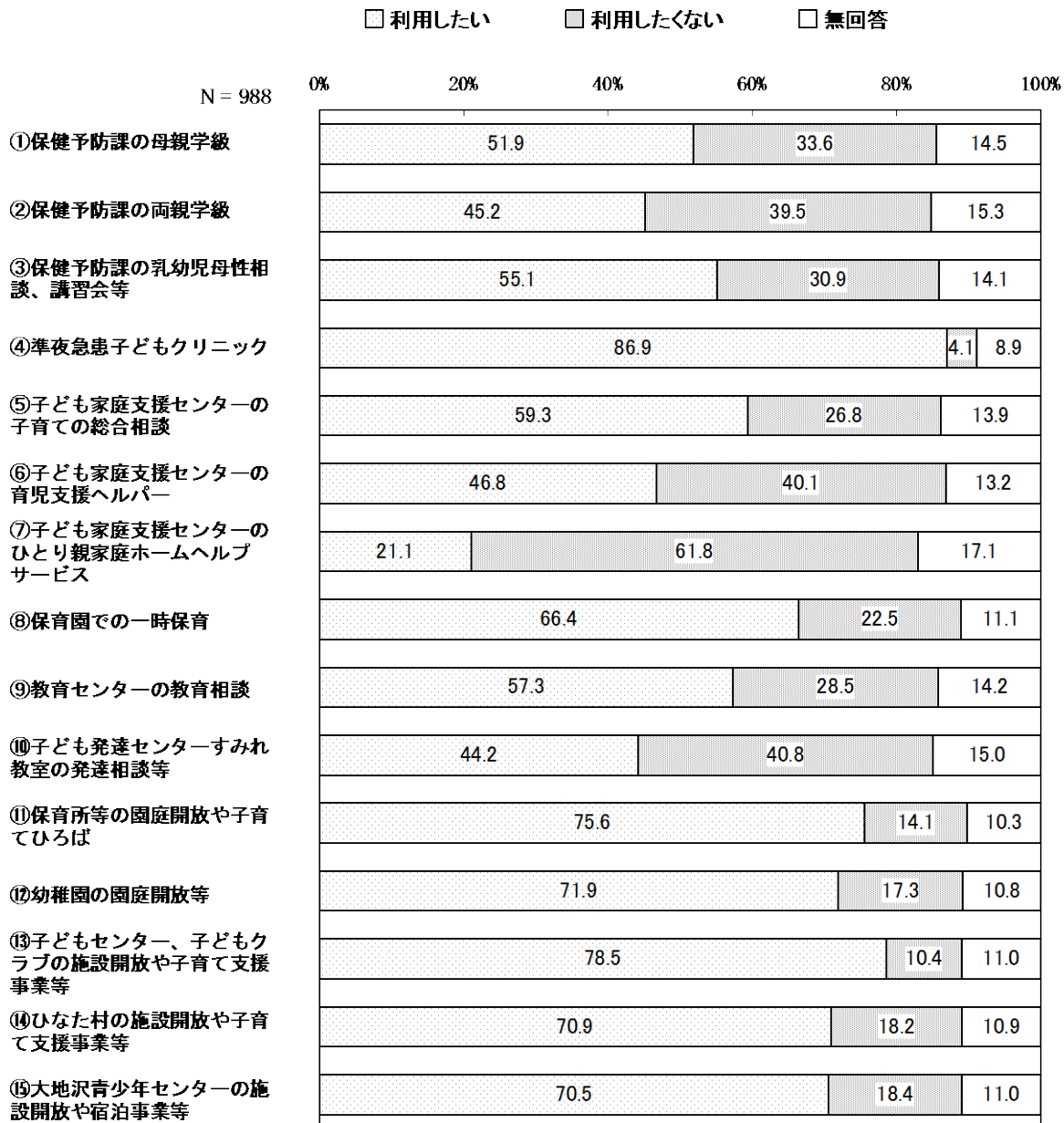
小学生保護者



【利用意向】

就学前児童保護者、小学生保護者ともに④準夜急患子どもクリニックで「利用したい」の割合が高くなっています。その他に、就学前児童保護者は⑩保育所等の園庭開放や子育てひろばなどの園庭開放・施設開放に対する利用意向が高く、子どもの遊び場へのニーズの高さがうかがえます。

就学前児童保護者



小学生保護者

利用したい
 利用したくない
 無回答

N = 922

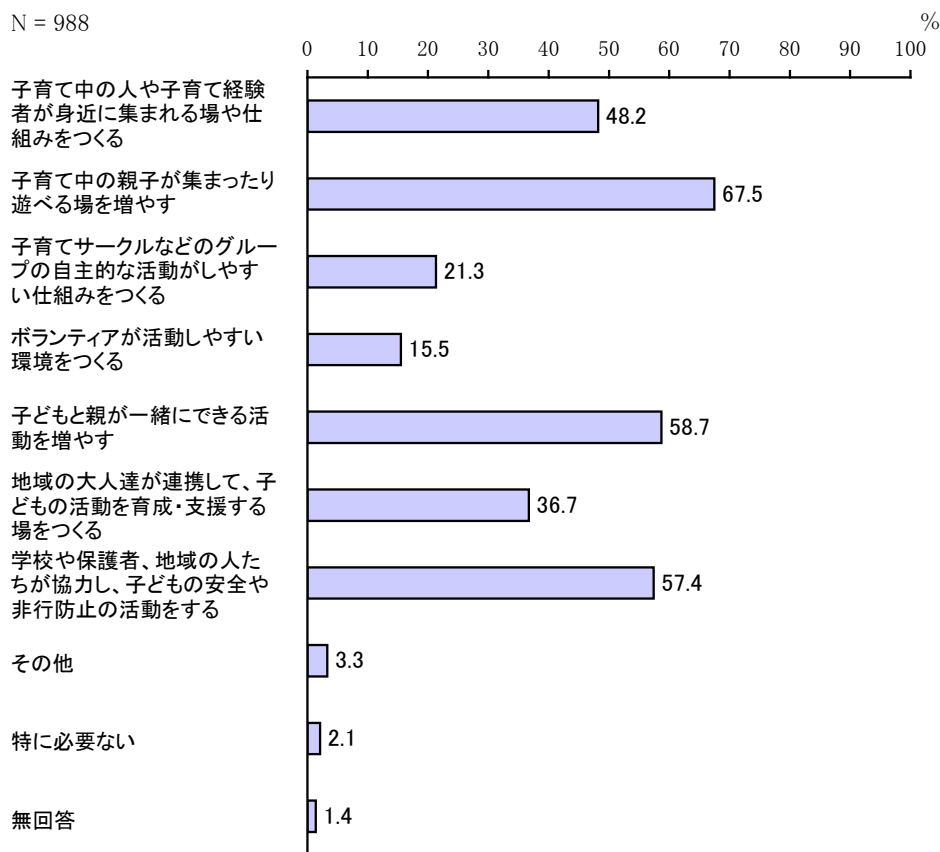
0% 20% 40% 60% 80% 100%

	利用したい	利用したくない	無回答
①保健予防課の母親学級	44.1	37.2	18.7
②保健予防課の両親学級	36.2	45.0	18.8
③保健予防課の乳幼児母性相談、講習会等	40.1	40.2	19.6
④準夜急患子どもクリニック	81.5	6.5	12.0
⑤子ども家庭支援センターの子育ての総合相談	49.7	33.6	16.7
⑥子ども家庭支援センターの育児支援ヘルパー	35.7	46.6	17.7
⑦子ども家庭支援センターのひとり親家庭ホームヘルプサービス	22.1	57.8	20.1
⑧保育園での一時保育	46.4	34.4	19.2
⑨教育センターの教育相談	51.3	31.7	17.0
⑩子ども発達センターすみれ教室の発達相談等	33.9	46.4	19.6
⑪保育所等の園庭開放や子育てひろば	51.4	30.6	18.0
⑫幼稚園の園庭開放等	48.9	32.2	18.9
⑬子どもセンター、子どもクラブの施設開放や子育て支援事業等	68.8	16.2	15.1
⑭ひなた村の施設開放や子育て支援事業等	65.1	19.8	15.1
⑮大地沢青少年センターの施設開放や宿泊事業等	69.7	15.6	14.6

問 21 安心して子育てをするために、地域で必要な取り組み

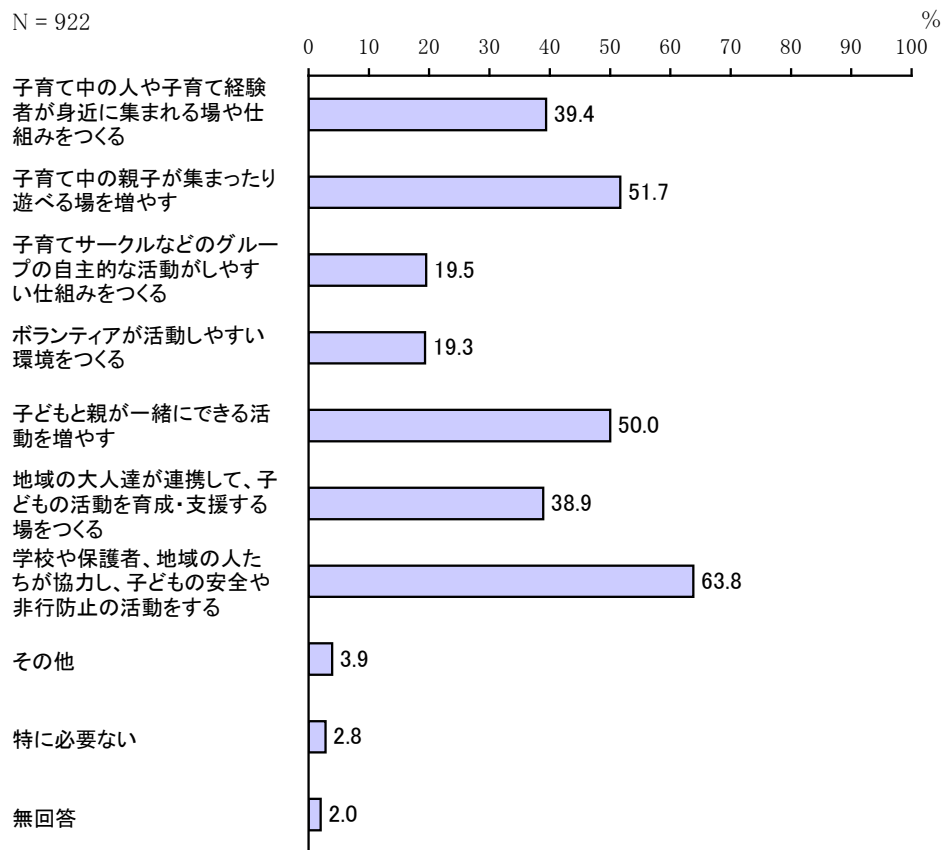
就学前児童保護者では、「子育て中の親子が集まったり遊べる場を増やす」の割合が最も高くなっているのに対し、小学生保護者では「学校や保護者、地域の人たちが協力し、子どもの安全や非行防止の活動をする」の割合が最も高くなっており、子どもが小学校に上がるにつれ、子どもの安全や非行防止に対する意識が高まってくる傾向がうかがえます。

就学前児童保護者



小学生保護者

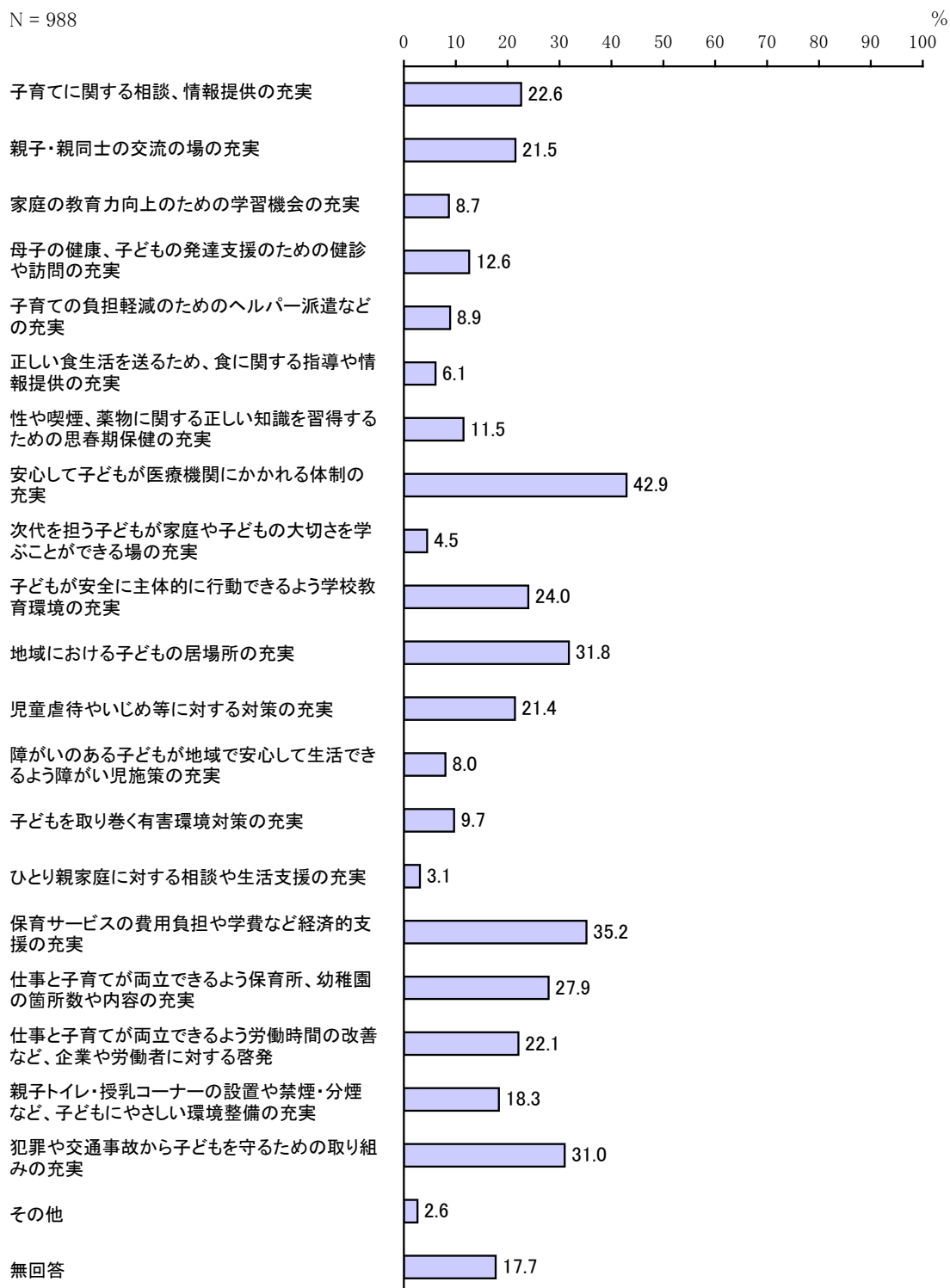
N = 922



問 22 市の子育て支援施策に期待すること・重要なこと

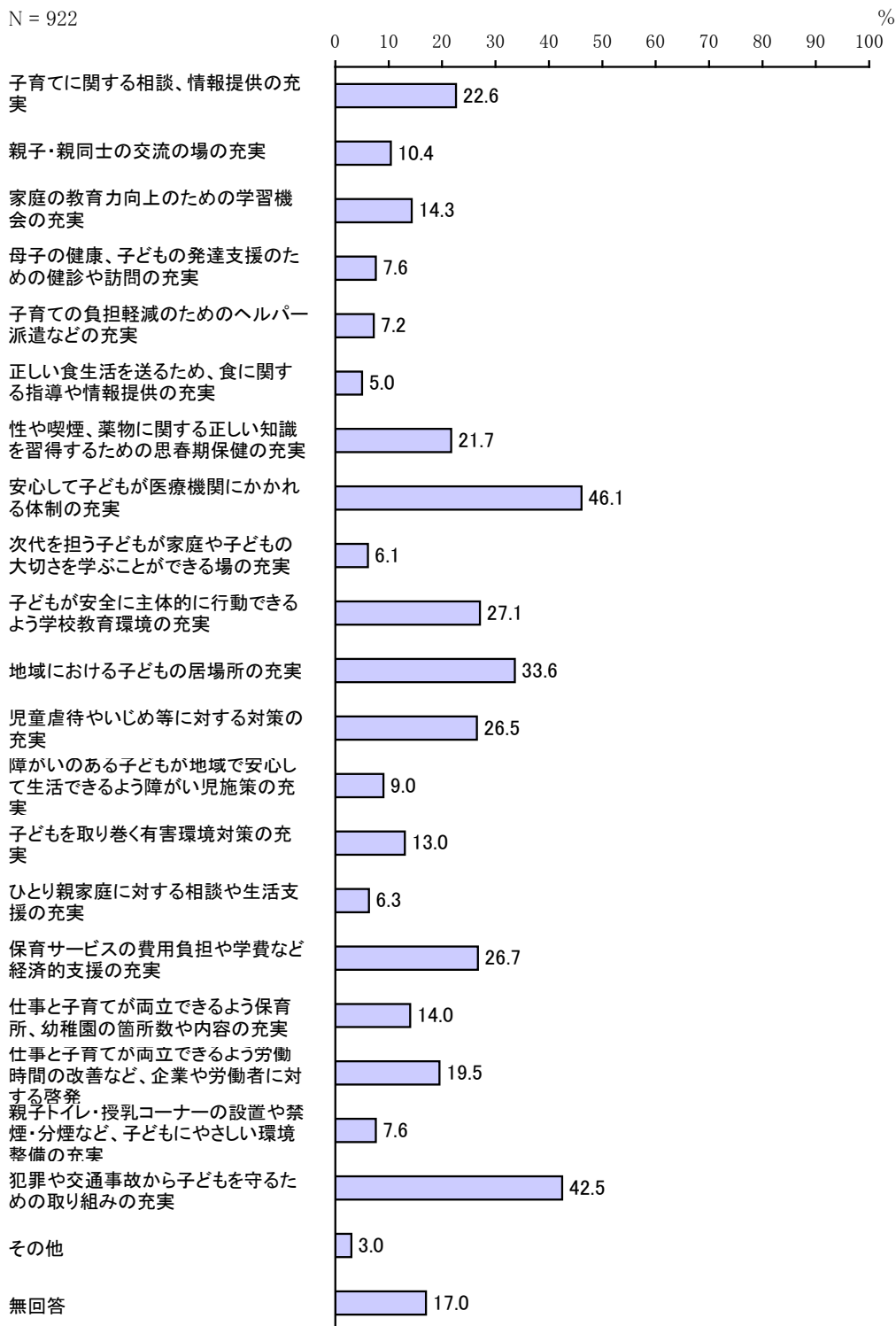
就学前児童保護者、小学生保護者ともに「安心して子どもが医療機関にかかる体制の充実」の割合が最も高く、前述のサービスの利用意向において、「準夜急患子どもクリニック」の利用意向が高かったことを鑑みると、小児医療に対する保護者のニーズの高さや重要視されていることがうかがえます。

就学前児童保護者



小学生保護者

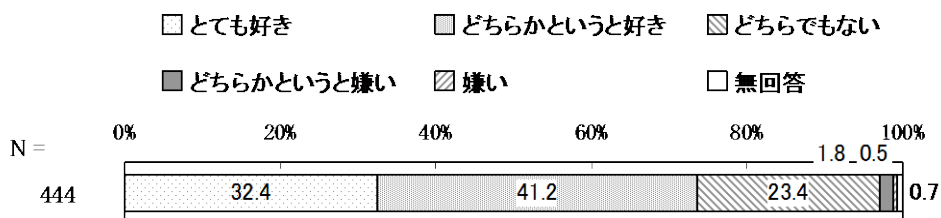
N = 922



7 中学生・高校生の状況

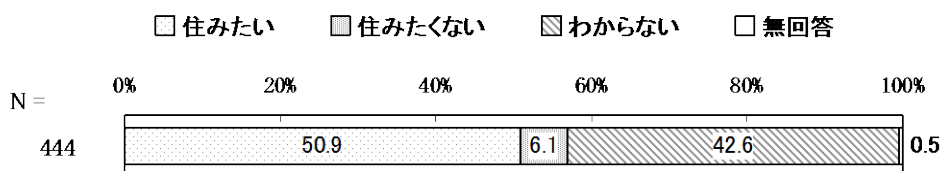
問6 町田市への愛着

「とても好き」と「どちらかという好き」を合わせた割合が73.6%と、ほとんどの生徒が町田市への愛着を持っています。



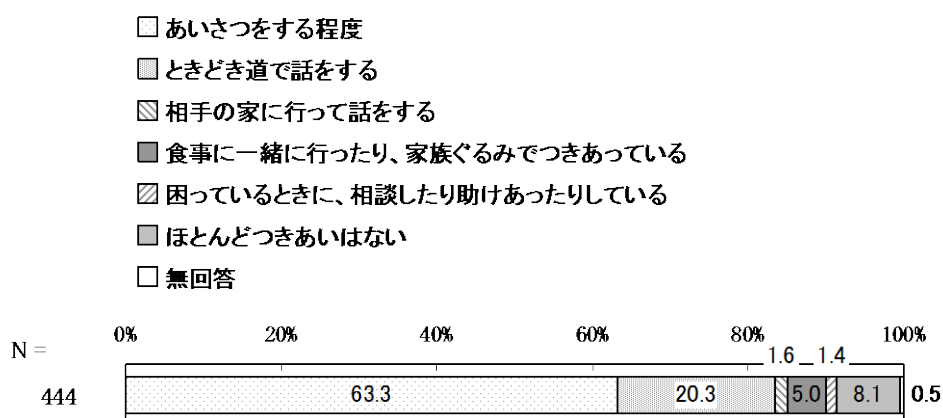
問7 町田市への定住意向

市への愛着は高い一方で、「住みたい」の割合が50.9%と、市への愛着と定住意向の間に開きが見られます。



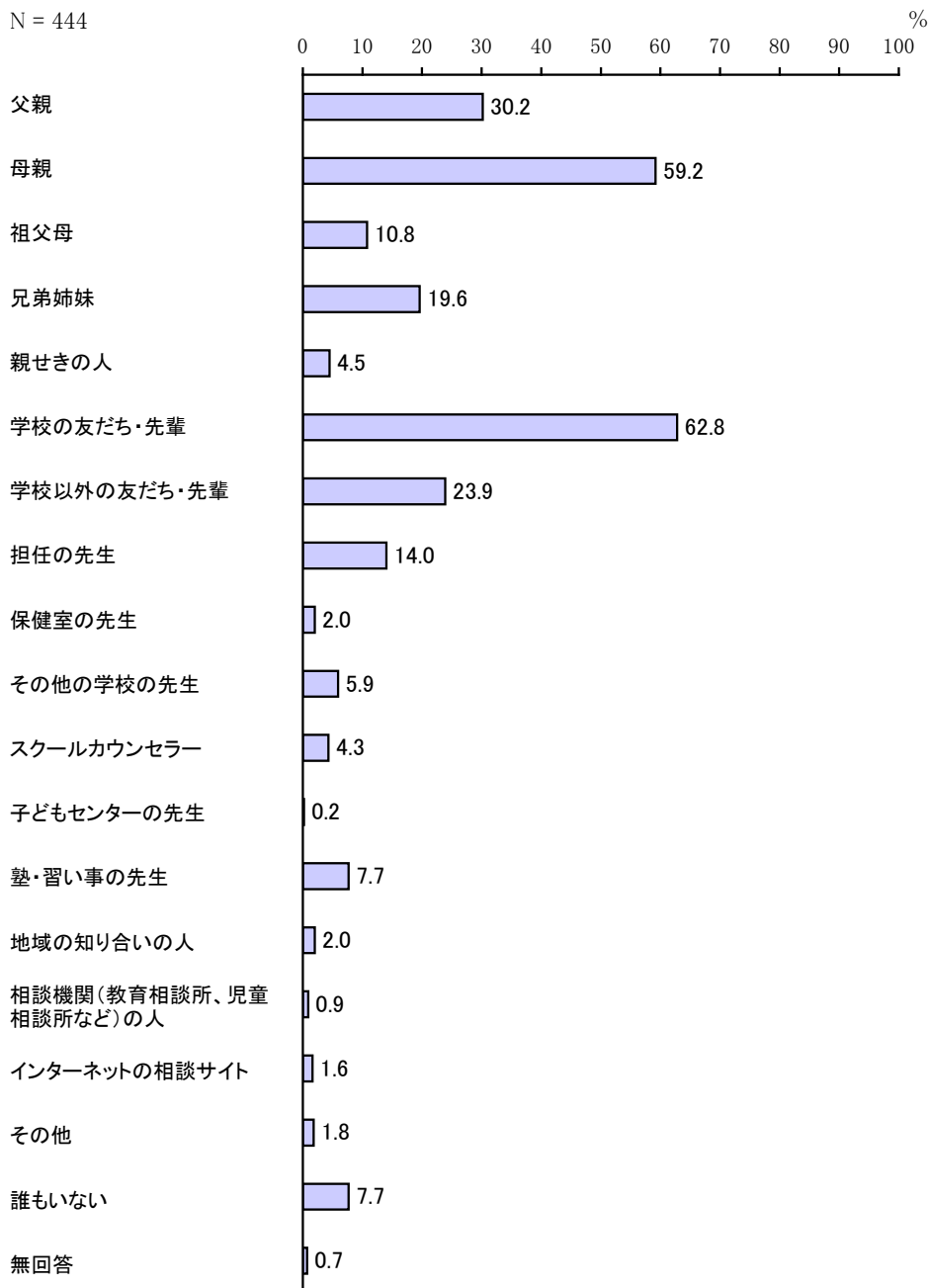
問10 近所とのつきあい

「あいさつをする程度」の割合が63.3%と最も高く、保護者と比較すると近所とのつきあいは薄い傾向が見られます。



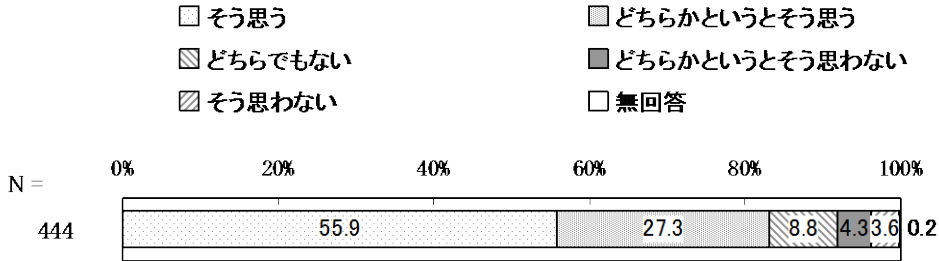
問 14 何か相談したいことや聞いてほしいことがあったとき、気軽に話せる相手

「学校の友だち・先輩」、「母親」の割合が高い一方で、「誰もいない」が7.7%と、相談できる相手がいない、できない子どももいることがうかがえ、こうした子どもの悩みを拾い上げ、対処していくことが課題となります。



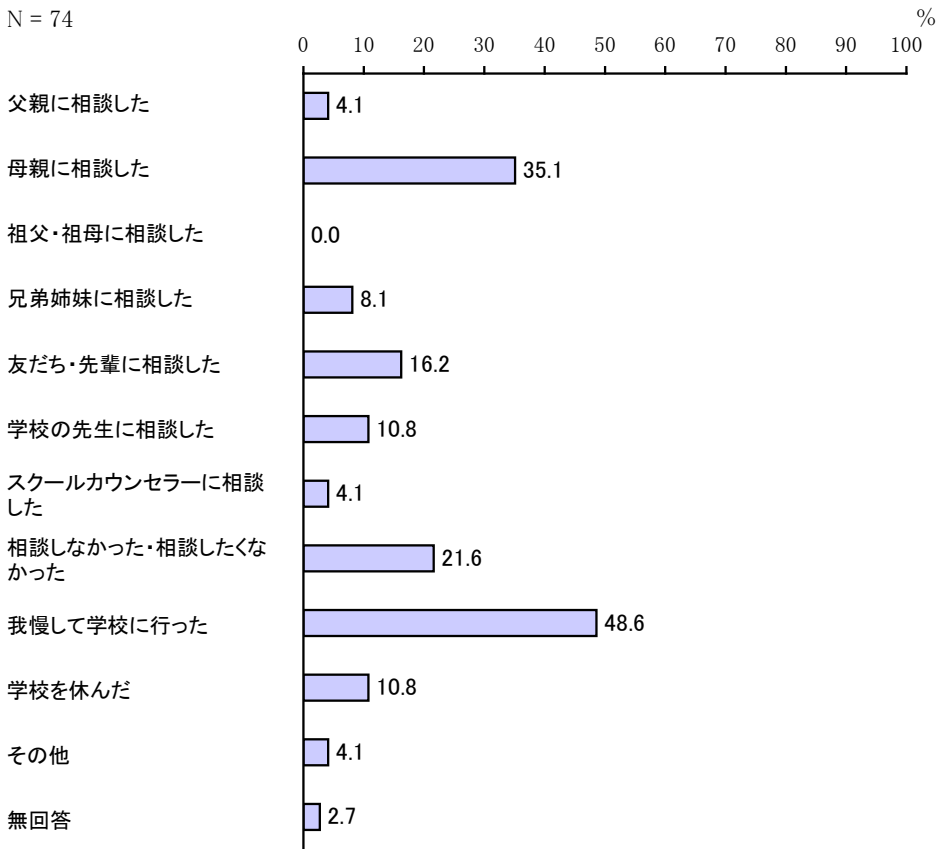
問 16 学校が楽しいか。

「どちらかというと思わない」、「そう思わない」と感じている子どもが 7.9%となっています。



問 16-3 学校が楽しいと思わない時にどうしたか

「相談しなかった・相談したくなかった」の割合が 21.6%と、学校への行きづらさを感じながらも、相談せず一人で抱え込んでいる子どもが潜在していることがうかがえます。



問 23 自己肯定感

「そう思う」「やや思う」を合わせた自己肯定感を持っている子どもの割合が 61.4% となっていますが、一方でそうは思わない、自己肯定感を持っていない子どもも 4 割ほどと少なくない状況であり、子どもの自己肯定感を高めていくことも今後の課題の一つとなります。

